

- ⑤ 参加者の資格
 下記の要件を備えるもので、市町村教育委員会教育長及び県教育庁教育事務所長から推薦を受けた者
 ア、県内に居住する18歳～26歳未満の勤労青年
 イ、青年団体・グループ等の指導者
 ウ、青年学級・教室生のリーダー
 エ、健康状態が良好なもので、胸部及び伝染性の疾患のない者
 オ、過去において、国内研修に参加していない者
 カ、研修終了後、郷土にあって研修の成果を積極的に生かし得ると認められる者
- ⑥ 研修テーマ
 ア、地域社会における青年団体の組織・運営とその問題点
 ——特に活動事例を中心とした情報交換——
 イ、青年学級・教室等の学習活動とその問題点

6 地域振興青年指導者セミナー

(1) 趣 旨

地域社会で、青少年の育成に当たっている指導者、並びに今後指導者として活動しようとする者が、指導者として必要な知識と技術等についての学習を通して指導理念の確立に努めるとともに、指導者相互の連携を密にして地域振興に寄与して行くことを目的とする。

(2) 実施主体 福島県、福島県教育委員会

(3) 期日・会場・参加者

- ① 期 日 昭和49年12月3日～5日
 ② 会 場 国立磐梯青年の家
 ③ 参加者 県内に居住する20歳～35歳未満の有志指導者で、下記の180名
 ア、社会教育委員、児童委員、年少労働者福祉員、青少年指導員、青少年相談員、青少年育成県民運動推進指導員等のアウトリーダ
 イ、地域青年団の役員、青年学級・教室及び青少年グループ・サークルのリーダー
 ウ、県主催本年度実施の青年国内研修、フレンドシップトレーニング、海外派遣等の研修終了者で、将来アウトリーダとしての活動が期待される者

(4) 講師・助言者

宮城教育大学助教授	近藤 義忠
日本レクリエーション協会参事	山田 征夫
福島県市町村社会教育委員連絡協議会長	今井 豊蔵
会津若松市立図書館長	渡部 宏
猪苗代町児童委員	佐々木 邦
福島県地域振興青年連盟会長	鈴木 賢一
同 事務局局長	小竹 源竹
福島県生活環境部青少年課員	
福島県教育庁社会教育課社会教育主事	
同 各教育事務所社会教育主事	

(5) 研修内容・方法

研修主題 「有志指導者が青少年活動に果たす役割は何か」

- ① 講 義 「青少年指導者の心構え」
 「青少年問題の所在」
 ② 講義・実技 「レクリエーションと実技の指導」
 ③ 実 技 「野外活動」
 ④ パネル討議 「有志指導者が青少年活動に果たす役割は何か」
 登壇者 地域青年会会長、地域子供会指導者、目的青少年団体指導者、児童委員、青少年育成県民運動推進指導員、社会教育委員
- ⑤ 事例発表テーマ
 「青少年活動を活発にするため、わが市(町村)ではこのようにして指導者相互の連携を図っている」
 発表者 表郷村 内藤信光
 東和町 氏家哲男
 いわき市 佐々木俊夫
- ⑥ 分散会テーマ
 「青少年活動の現況と指導上の問題点」

7 全国青年学級生大会への参加

(1) 趣 旨

全国の青年学級生代表が一堂に会し、交歓研修を行うとともに連絡提携を図る。

(2) 主 催 国立江田島青年の家、広島県教育委員会

(3) 期日・会場・参加者

- ① 期 日 昭和49年9月21～23日
 ② 会 場 国立江田島青年の家
 ③ 参加者 男子 3名 女子 2名 計 5名

(4) 研修方法

- ① 事前指導 昭和49年8月6～8日
 福島県少年自然の家
 「青年と学習」、「レクリエーション」
 「研修主題と各自研修テーマの設定」
 「情報交換」、「学級生大会の意義」
- ② 本大会
 ア、記念講演 「日本人の生活と民謡」
 講師 広島県文化財専門委員 真下 三郎
 イ、分散討議 「青年学級で何をどのように学ぶか」
 ウ、全体討議
 エ、カッター競漕
 オ、中国地方の芸能観賞、キャンドルのつどい

8 県研究青年学級の委託

(1) 趣 旨

急激な社会構造の変化により、従来勤労青年のための公教育機関として重要な役割を果たしてきた青年学級が、近年はその開設・運営さえ困難になってきている現状にかんがみ、今日的課題として地域の実情と青年の実態に即した適切な青年教育計画を確立する必要がある。

したがって、これら勤労青年を取り巻く関連行政・機関等との連携を考えながら、効果的な青年学級の開設・運営等の方法について、継続的に実践による研究を県が研究青年学級として委託し、その成果について資料の報告をもとめ、もっ